

# 未来につながる失敗のすすめ

「失敗は成功のもと」とは、よく言われる言葉です。確かに、失敗は人が成長する過程において欠かせない学びの源です。変化のスピードが加速し、将来が見通しづらい今の社会において、まだ経験の少ない高校生たちが壁にぶつかるのは避けられないことでもあります。だからこそ、つまづいたときに立ち上がり、前を向いて進む力を身につけてほしい——そう願う先生も多いのではないのでしょうか。

一方で、失敗は怖く、恥ずかしいと感じるのも自然な感情です。さらに、「何でも失敗すればいい」というわけでもなく、失敗をどう受け止めさせ、どこまでを許容するかに悩む先生も少なくありません。

この特集では、「失敗の本質とは何か」を改めて見つめ直し、生徒たちが未来へと歩む力を育むために、学校という場でどのように失敗の機会をつくっていくのかを探ります。

## Question

### 先生方に聞いてみました

学校生活で生徒たちが経験する「失敗」。

先生方にその意義や課題についてお聞きしました。

失敗を経験させることの難しさを感じつつも、失敗を恐れず挑戦し、そこから学びを得てほしいという先生方の願いが伝わってきました。

### 学校における失敗の役割

● 失敗からの立ち直り＝レジリエンスは、放っておいて身につくものではない。失敗→振り返り→改善→成功体験というサイクルを支援することで、生徒の中に「転んでもまた起き上がれる自分」が育まれる。そのために、校内にリフレクションの文化を醸成していくことが大切だと考える。(静岡県・公立高校・副校長/教頭・50代)

● 人生において常に成功し続けるのは不可能です。失敗するのは当たり前のこと、恥ずかしいことではないというのは、まず教室で教えていく必要があ

ります。たくさん失敗をする場として教室があることを意識づけできれば、自己肯定感を高めることにつながっていくのではないかと考えています。(神奈川県・公立高校・学年主任・40代)

● 失敗したくないという思いが強い生徒は自己肯定感が低いので、失敗から次につながる体験をさせたいです。総合的な探究の時間がそうだと思いますが、失敗しても大丈夫だという安心安全な環境を生徒に提供できるような授業づくりを紹介してほしいです。(静岡県・公立高校・副校長/教頭・50代)



## 失敗を許容する難しさ

- 失敗させないでおうと教師が段取りをしすぎてしまう。(和歌山県・公立高校・クラス担任・40代)
- 学校としては保護者の反応が気になる。打たれ弱い子どもが多く、すぐ親からクレームがきたり、学校に来なかったりとその反応に苦慮する。また、それを恐れて、100%の準備をしないと何事も進められないと過剰な準備に走る先生も多い。(群馬県・公立高校・校長・50代)
- 時間数の都合で、失敗させられない。こちらがフォローしてしまう(せざるを得ない状況)。(滋賀県・私立高校・クラス担任・50代)
- 失敗を避けたがるのは、生徒だけでなく教員も、保護者も、管理職も、大人もその傾向がある。大人が失敗を避けようとしている姿を見せ続けている限り、生徒は自ら動かないだろう。(愛知県・私立高校・進路指導主事/部長・30代)

※『キャリアガイダンス』読者アンケートより抜粋

## 失敗を避けたがる生徒たち

- 生徒に挑戦させたいと思っても本人や保護者が避けたがる。間違いや失敗を嫌うので、自ら行動に移さず指示を待つ傾向がある。(福岡県・公立高校・進路指導主事/部長・50代)
- 生徒によっては、失敗を経験することで、次へ進むのを怖がって止まってしまう。その際のフォローについて知りたい。(沖縄県・公立高校・クラス担任・40代)
- 生徒が失敗を恐れて挑戦をしない傾向にあると思います。さらに一度の失敗がこの世の終わりのようになってしまうので、そこから立て直させるのに一苦労です。周りのことや自分への評価をとても気にします。みんなの前での失敗をとにかく避ける傾向があるので、全体の前で発表することができません。(神奈川県・公立高校・クラス担任・30代)